







徳島県の「農業職」について教えて!

徳島県の「農業職」ならではの 魅力は何ですか?

農業職の仕事は、農業施策の企画立案、農家へ の普及指導、新品種・新技術等の研究開発、次 代を担う人材育成と多岐にわたります。

特に本県では、県農林水産総合技術支援セン ターと徳島大学を核に構築した、人材育成や技 術開発を行う産学官連携拠点「アグリサイエン スゾーン」において、AI、5G等を活用したス マート農業技術の開発に取り組めるほか、生産 現場で農家に寄り添い課題解決や夢の実現に 貢献できるところも魅力です。

■ 人事異動について教えて ください。

農業行政、普及、研究、教育(農業大学校)など の分野を概ね2、3年サイクルで異動します。 早い時期に普及指導員資格試験の受験要件で ある実務を経験していただくように配慮してい ます。

なお、人事異動については、必ずしも希望どおり になるとは限りませんが、異動先の希望を伝え る機会を設けています。

給与について教えてください。

初任給は、月額225.600円(大学卒)です。 職務内容によっては、給料月額の6%の額の 「農林漁業普及指導手当」が毎月支給される場 合があります。

研修体制や資格取得支援、研究 発表等の取組はありますか?

農林水産省が主催する技術研修等に参加できる ほか、基礎的な知識や技術を習得する新任期研修 や普及指導員資格取得のための研修、専門分野 の技術強化のための研修などを実施しています。 また、毎年、各研究分野の研究成果発表会や普 及業務における調査研究事例発表会等を実施 し、職員の資質向上に努めています。

もっと「農業職」について知りたい!

徳島県職員採用ホームページ でも、職務の内容や先輩職員の 声を紹介しています!



農業職の 業務に関する問合せ

徳島県立農林水産総合技術支援センター経営推進課

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地 徳島県庁6階 TEL.088-621-2398 FAX.088-621-2858 ⊠ keieisuishinka@pref.tokushima.lg.jp

採用に関する 情報・問合せ

採用ホームページ

https://www.pref.tokushima.lg.jp/saiyou/



〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地 徳島県庁3階 TEL.088-621-2358 FAX.088-621-2825 ⊠ jinjika@pref.tokushima.lg.jp

SNSでも 情報発信中!









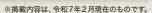












TOKUSHIMA

職員採用案内





(7 徳島県

研究員は、研究対象となる作物や野菜、果樹を自分たちで栽培しています。作物や果樹の中には 1年に1作しか栽培できない品目もあり、計画的に試験設計を考えることが重要です。日々農作 業に取り組みながら栽培管理を学び、職場の皆で協議を重ねて研究を進めていく、明るく前向 きな職場です。





りお / Yamauchi Rio

農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課 研究員 令和3年度入庁

- ●令和3年度:西部総合県民局農林水産部<=好>
- ●会和5年度:農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課

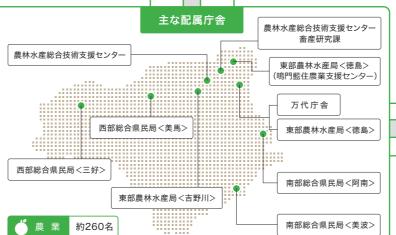
INTERVIEW 01

よりよい栽培管理方法の開発に向けて

私は、果樹の中でも落葉果樹を担当しており、主にナシの新品種育成を行っています。生産現場の 状況を把握して必要とされる品種の改良点を見つけ、今ある品種とは収穫時期が異なるものや、 より糖度が高いなどの優良な特徴を持つ品種の開発に取り組んでいます。また、圃場管理を通し て管理の省力化に取り組むことも重要な仕事のひとつです。棚付けや剪定など大変な作業もあり

ますが、よりよい栽培管理方法開発のため、日々やりがいを感 じながら作業に励んでいます。

自分が開発に関わった品種や栽培技術が、いつか徳島県の生 産者のもとに届く日を楽しみに研究を進めており、人の役に 立てる魅力的な仕事だと感じています。



が、農業者の成長を一番近くで見届けることができ、非農家出 身で県外から移住した就農者から「ありがとう」と感謝された ときは、この仕事に携われて良かったと強く感じます。

南部総合県民局農林水産部<美波>

農業者とともに地域農業の未来を考え歩む日々

農林水産部<美波>では、直接農業者と接し、農業技術や経営の向上を支援しています。具体的 には、栽培技術の指導や経営相談に応じるほか、スマート農業など新技術の普及や、化学農薬・ 化学肥料に依存しない環境に配慮した農業の推進、農産物の加工・販売支援に取り組んでおり、 幅広い視点で農業者の活動をサポートしています。

また、産地が抱える課題の解決に向け、農業者や町、農協などの関係機関と連携した産地振興に も取り組んでいます。私たち普及指導員は、農業現場での活動が多く、県職員の中でも農業者に 一番近い存在です。農業者とともに地域農業の未来を考え、その実現に向けて歩んでいくことが

INTERVIEW 03

▼ 相談対応の様子

農業者の成長を一番近くで見届け、感謝されたとき充実感を得られる

海部地域の恵まれた自然やレジャー環境を活かし、Iターン・Uターン者を中心に農業の担い手育成 に取り組んでいます。

農協や町と連携した就農希望者に対する就農相談会や、農業の基礎知識が学べる「海部きゅうり 塾」や「もうかる農業講座」の開催、ベテラン農業者の協力による技術指導や経営相談などを通じ、

> 新規就農者が安心して農業を開始できるよう支援しています。 普及活動は、農業者の生活や経営に関わる責任ある仕事です

......



加奈 / Tsutsumi Kana

南部総合県民局農林水産部<美波> 主任主事 平成27年度入庁

[所属歴]

- ●平成27年度: 農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課
- ●平成30年度:農林水産基盤整備局農山漁村振興課ふるさと創造室
- ●令和元年度: 鳥獣対策・ふるさと創造課
- ●令和3年度:南部総合県民局農林水産部<美波>



田村 收/Tamura Osamu

みどり戦略推進課 係長 平成10年度入庁

- ●平成15年度: 徳島農業改良普及センター ●平成19年度: 農林水産総合技術支援センター試験研究部農業研究所
- ●平成24年度:東部農林水産局<吉野川>
- ●平成10年度: 果樹試験場
- ●会和2年度: 農林水産総合技術支援センター資源環境研究課

INTERVIEW 02

農家さんの笑顔を生み出すことが できる魅力的な仕事

農作物を栽培する上での厄介者「病害虫」。私は、この病害虫

から農作物を守り、農業生産の安全、助長を図る「植物防疫」に関する業務を担当しており、特に、 化学農薬だけに頼らない「人にも環境にもやさしい病害虫防除」を推進しています。一例として、県 内のキュウリ農家の方を対象に、害虫防除対策として、天敵昆虫を活用した化学農薬だけに頼ら ない防除方法の実証支援を行いました。

農家さんから「化学農薬の使用量が減っただけでなく、省力化に繋がり、人にもやさしい防除がで きた。ありがとう。」と満面の笑みで感謝をいただきました。農家さんの笑顔を生み出すことができ る仕事、魅力的だと思いませんか?

INTERVIEW 04

次世代を担う若者の将来への道標となりたい

現在は、アグリビジネスアカデミーの統括補佐と本科の6次 産業ビジネスコースで「果樹」を主に担当しています。高校を

卒業したばかりの学生が多いため、農業職の中で最も若い人を対象とした職場だと思います。 若い学生たちと一緒に研究や農作業を行うことはとても楽しく、いつも元気と活力をもらってい

このような次世代を担う若者に、これまでの業務で得た知識を還元し、少しでも将来への道標と なれたらと考えています。実際に、非農家の学生から「将来新規就農したい」や「大学に編入後、徳 島に帰ってきて先生のような県職員になりたい」といった言葉を聞いた時は、この仕事をやってい て良かったと思いました。



德永 忠士 / Tokunaga Tadashi

農林水産総合技術支援センター農業大学校 教授 平成3年度入庁

- ●平成3年度:果樹試験場
- ●平成13年度:農林水産総合技術ヤンター ●平成17年度:農林水産総合技術支援センター試験研究部
- 果樹研究所 ●平成25年度:東部農林水産局<徳島>
- ●平成29年度:もうかるブランド推進課
- ●令和3年度:名古屋事務所 ●令和5年度:農林水産総合技術支援センター農業大学校

GX・DX時代を捉えた新たな政策を推進

拡大に関することや畜産分野と連携を図る耕畜連携の推進などを行っています。

みどり戦略推進課は、農林水産省が策定した、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を イノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」の達成を目指し、令和5年6月に新たに創 設された課です。食料の安全保障を担う農林水産業は、地球温暖化による大規模自然災害の発 生、新たな病害虫の発生、新型コロナを契機とする生産・消費の変化などの課題に直面していま す。これらの課題を解決するため、GX・DX 時代を捉えた新たな政策の推進を図っています。 具体的には、環境にやさしい農業生産の推進、園芸作物の振興、食育・地産地消の推進、米の消費



▲ グリーン農業啓発ポスターの作成

みどり戦略推進課



幅広い分野で活躍できる人材を育成

農業大学校本科では、先進的な農業生産技術を学ぶ「農業生産技術コース」と、農業生産に加 え、食品加工も学ぶ「6次産業ビジネスコース」があります。農林水産総合技術支援センター内 の恵まれた環境において、実習がカリキュラムの約半分を占める実践的な教育・研修を行うこと により、幅広い分野で活躍できる人材を育成しています。

また、実習で生産した農産物や加工品は、全国的にも珍しい学生自らが運営する模擬会社で販 売しており、消費者ニーズや経営感覚を体感的に学ぶことを手助けしています。

さらに、社会人の方を対象とした研修を行うとともに、農業への理解を深めるための「アグリビ ジネスアカデミー」も開校しています。

農林水産総合技術支援センター農業大学校

▲ ウメの収穫